京交山岳部報

No.379　　'84　5月号

〔第１４８６回例会〕

笈ヶ岳　スキー登山　（A）

日　　時　5月5日（祭）～6日（日）

コ　ー　ス　京都ー白鳥ー白川村ー大窪…三方岩岳…瓢箪山…仙人窟岳…笈ヶ岳

担 当 者　（本局）　大槻雅弘（TEL　2266）

備　　考　残雪の山をスキーで行動します。マイカーで行きますので連絡して下さい。

〔第１４８７回例会〕

日本ヶ塚山２等△１１０７mとその周辺　（T）

日　　時　5月12日（土）～13日（日）　11日夕方出発予定

コ　ー　ス　京都豊川Ｉ.Ｃ－Ｒ１５１号ー坂字場ー県道津具大嵐線ー瀬戸（富山村）ー中沢 幕営…日本ヶ塚２等△…往路下山

佐久間ダムーＲ１３２号ー神原ー河内浦…常光寺山△１４３８m…山住神社

佐々門ー飯田線ぞいにＲ１５１号合流ー帰京

担 当 者　ＯＢ　伊藤潤治（TEL　463－4936）

備　　考　2月に行く予定でしたが、大雪のため紀州に変更した結果再行するものです。マイカーで行きますので連絡して下さい。

〔第１４８８回例会〕　横井氏退職記念登山

北比良縦走　（R）

日　　時　5月13日（日）　京都駅　7：42発 湖西線乗車

コ　ー　ス　比良登山口ー（リフトロープウエー）ー北比良峠…武奈ヶ岳…つるべ岳…地蔵峠…蛇谷峠…畑ー高島駅

担 当 者　九条用地　大槻貞従（TEL　2224．672－3148）

備　　考　新緑の北比良を楽しくファミリーで歩きましょう。

今月の集会

5月10日（木）　下鴨寮

〔第１４８９回例会〕　利尻トレーニング　第２回

桟　敷　岳　（T）

日　　時　5月27日（日）

コ　ー　ス　雲ケ畑岩屋橋…岩屋不動…薬師峠…桟敷岳

担 当 者　錦林　武田喜久郎（TEL　2375）

備　　考　北海道ゆきもいよいよあと１月余りになりました。ガンバッテトレーニング例会に参加して下さい。

〔第１４９０回例会〕　坂井久光氏、山下周道両名誉部員還暦お祝い登山

大　鼠　山　（R）

日　　時　6月2日（土）～3日（日）　12時３０分壬生交通局前集合

コ　ー　ス　京都東Ｉ.Ｃ－名神・北陸自動車道－富山Ｉ.Ｃ－岐阜県神岡町－岩井谷－1,200m地点で幕営…大鼠山登山（約2時間）－往路帰洛

担 当 者　三橋　勉（TEL　2215）　　田中忠久（TEL　2315）

備　　考　マイクロバスにて行きますので、参加希望の方は担当者まで申し出て下さい。（申込〆切　5月25日　午前中）

なお、記念品代のみご賛同の方は、1口　1,000円をお願いします。

企画運営リーダー会

5月18日（金）　吉田宅

山声雪語　リーダーの責任

岡　田　茂　久

昨年の１２月９日　静岡地裁で一つの判決が下された。静岡県社会人体育協会が主催した〝残雪の八ツ岳縦走〟において、パーティの女性メンバーの一人が滑落死亡し、その遺族がその団体及びリーダーに対し損害賠償を請求しそれが認められたものである。

概要は協会が発行する部報において、５５年4月２９日～３０日の日程で募集し３０名が参加、南八ツ岳の横岳から錦岳へとトラバースルートでの事故である。この縦走は相応の登山技術が必要であるのに女性１７名を含む参加者に対し、その適格性を審査せずに許可し山の状況・装備等に対して適切な指示もせず、３０数名の参加者に対して２名のサブリーダーを集合場所で依頼、悪天候の中参加者の疲労を無視し登山を続行、現場は滑落の危険が予想される場所にもかかわらず、ザイ

ルの使用やアイゼンの着装等の適格な注意事項も指示せず、安全確保の措置を怠った過失により、2133万円の損害賠償を支払えという判決である。もっとも事故者が目鏡を常に装着すべき視力であったのに曇るからと外していた過失相殺をしての判決である。山岳遭難事故で民事責任が問われたのはこの判決が最初とのことである。

その後、55年12月北アルプス八方尾根で神奈川県逗子開成学園高校の引卒教師と生徒5名が全員遭難死した事故では、学校の管理責任は裁判では追求されなかったが、特殊法人学校健康会に保険金を請求する上で正式のクラブで学校の管理下になければ支給されないことから、結局裁判所での和解交渉で学校側はその〝非〟を認めた格好で2億円余りを遺族に支払うことができたというニュースを聞いている。

刑事々件としては、高校山岳部の引卒教師の過失責任を認めた北海道芦別岳の事故、同じく高校山岳部で朝日連峰遭難事故で引卒教師の過失なしとしたもの、山岳事故ではないが41年宮崎県のキャムプ場の集中豪雨で女生徒8名が水死した事故では引卒教師の過失責任なしとしたもの、まだ判決はでていないが、宇都宮市の鬼怒川でボーイスカウトが川下りをして橋脚に激突、3人が水死した事故ではリーダーのボランティアが過失責任ありと送検されている。

こうした事例をみるとき、いかなるときにリーダーは責任をどの程度まで追求されるべきなのであろうか、〝スポーツに参加するものは、そのスポーツの中において通常予測される危険性において、受忍することに同意しているものと解する〟という判例がだされている。登山というスポーツは、他のスポーツに対しその精神は同時限で語りたくないが、その行為のみを取上げればこの判断は認められるべきものであり、ただ球技等に比し、フィールド及び気象条件等常に危険性を伴っているのが異っている。学校のクラブ活動・ボーイスカウト等においては問題があるが、およそ社会人における山岳会・山岳部の活動においては、登山というスポーツに参加する者は常にこの危険性は受忍すべきものであり、その上にたってリーダーは気象状況・ルートの安全性・パーティの体力状況等の安全確保・危険回避の措置等、パーティの安全第一を考えてリーダーとしてのベストを尽したうえでの事故については、その道義上の責任は逃れるべきもないが、民事・刑事々件として裁かれ追求されるべきものではないと考える。

こうした問題を考えるとき、リーダーという責務に附えかね委縮してしまうことがあるかもしれない。しかしリーダーはそのもっている力で指導性をふるに発揮し、最善を尽したときはだれからも非難されるものではなく、自信をもって堂々と山岳活動に前進していきたい。

又メンバーとして参加するときも、つれていってもらうのではなく〝山は自分の足で登るものであり〟山に登る者の責任においてリーダーにはすなおに従い、山での飲酒等もTPOを心得、山岳保険等も積極的にかけるべきで、他のメンバー、ひいては社会に対して迷惑を掛けることなく、自然を愛して仲間との親睦と技術の向上を計り、今後共安全第一の登山を心掛けていきたいものである。

4月集会報告

出席者	OB	奥村	市役所	荒田	高速	岡田	梅津　吉田
	本局	大槻雅、鷲見、三橋、和田			九条	田中、古市、大槻貞	
	烏丸	大倉、台川					以上　13名

第１４７１回例会

豪雪の比良スキーツアー

大槻貞従

楽しみにしていた御岳スキー例会が、都合で中止になりくさっていたところ、三橋氏から電話があり、武田、大槻敏氏が比良へ山スキーに行くとのこと、これは願ってもない話しと早速参加することにした。昨年も行きましたが、積雪１ｍでブッシュがひどくあまりおもしろくなかったが、今年は３ｍ５０積っており楽しそうだ。

朝６時３０分に古市さんを途中でひろい、京都駅へ急行した。比良リフト駅に着いたところへ三橋氏と功ちゃんが汗をかきかき追いついて来た。これはどうしたことか、１時間早い電車で出発したはずの二人が我々より後に到着するとはとけげんに思って尋ねると、比良駅からの早朝バスの便がなくここまで歩いて来たので、かえって遅れた由。９時半頃やっと八雲ケ原に到着。段差のついた盛り上りようが、いつもとちがう積雪量をはっきり示していた。

武田、大槻敏両氏の姿は見えず、一足先に武奈めざされたのだと思い、我々４人も急いでコヤマノ岳経由で武奈目指した。思ったようにコヤマノ岳一帯はブッシュがかくれ、ふっくら盛り上がった広々した雪原が我々を迎えてくれた。樹林の間を上ったり下ったり縫い通していく爽快さ、さながらうさぎのように吹雪の止む間に穴から出て、雪原を何かを求めて自由に自分の行きたい方角へうろつくのと同じだなあと思いながら山スキーの良さをぞんぶんに味わいながら歩いた。やがて雪庇の張り出した山頂をながめられる場所から上を見ると、すっかりブッシュやでこぼこの地面がかくれ化粧された大斜面を自由に自分の行きたい方角に進むことが出来る。１１時２０分山頂着。－８°Ｃ、寒波がきつく、いくら着込んでも寒さがしみ透ってくる。昼食のにぎりめしも固まりかけておりコチコチをたゞ食っただけ、三橋氏は生煮えのカップラーメンだとぼやきどうし。寒いので長居しておられずそゝくさと下山した。コヤマノ岳の手前まで来たとき、武田、大槻雅両氏が登ってくるのに出合い、これはどうしたことかと驚いたが尋ねて見ると、夏道をトレースして来られたので時間がかかったとのこと。それとマイカーで来たのが道略がつかえて遅れてしまったとのこと。これで総勢６人がそろった。豪雪のため、徒歩組はベテランもラッセルできず全員引き返したとのこと。そういえば今日は登山者が少ないなあと思っていた原因が分かった。ここから総勢６人がシールをはずして待望の滑降に入った。ゲレンデを一列にスキーヤー達の注目の中、ザック担いでかっこよく一気に疾風のごとく八雲へ下った。ここからはのんびりと金糞峠へ向って、山スキー隊一行がつぼ足組に珍らしそうにジロジロ見られながら得意気に進んでいった。やはりなんとなく優越感がわいてくる。

スノーブリッジはなんとなく気持が悪く谷へ落ち込んだらどこからはい上がろうかと考えながら渡る。だが一番つらいのは狭いブッシュの間を行く時、やっと金糞峠に着いた。ここから急峻な夏

道をジグザグに大きく左右に斜滑降で下ることにした。シールをつけて急斜面を下ることの爽快さと安全さを覚えた。こんな急斜面下れないと思う所もなんなく下れる楽しさと優越感、多くの登山者がのぞき込んで、大丈夫かなあ、なかなかやるじゃんかという顔つきで見つめている。後から皆歓声を上げながらスリリングにひっくり返りながら下ってくる。登山者の目から見れば、さぞ、そうかんだったろうと思う。沢筋に入り込み、青ガレもすっぽり雪にうもれ、平たい斜面になってしまっていた。思うに金糞峠からの狭い急斜面は、自分にはシールはずすとスピードが出すぎて、どうも恐ろしく勇気が出なかった。シールつけたまゝ下ってみて、かえって安全に、かつ早く下れた。若い頃なら無茶もやって見ようと思っただろうが…。

第１４７６回例会

飯　盛　山（生　野）

伊　藤　潤　治

この山は未登であったが既に、アリ山（飯盛山北峰）の報告（第３６号）で、「１６、飯盛山△９００.７m（いいもりやま）。播磨国多可郡ノ北方ニアリ、松井庄村ヨリ十八町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層ヨリ成ルモノノ如シ標高凡三千尺。（日本山嶽志）」　以上のように紹介した事があり、また山容についても篠ケ峰△８２７mを登った折（１９８１年１１月１０日）だけだが、眺めて帰っている。

３月６日は5時４５分のスタートで、Ｒ９号線と園部で別れ、天引峠・篠山を経て国鉄谷川駅、ここで少憩をとり続いて井原、和田、小野尻峠トンネルを抜けると妙見山、入相山、・８３４m、笠形山がすばらしい。鍛冶屋を経て飯盛山の麓、多田についた。多田では雪をつけた千ケ峰△１００６mが目立っていた。村人に飯盛山であることを確かめ、登るコースについて部報予告と違う林道終点から取付く短コースを教えていただき、その宮前林道に入った。

間もなく植林域に入り雪肌になるのだが、有難いことに除雪がしてあって、しかも車輪部分がコンクリート補装であったから急坂ながら一気に馳けのぼれた。林道は続いていたが、架線下の集材場で除雪道は終った。これはトラックのために開かれた道である。

はやくも三名が作業中で私の進入に驚いていた。その三名に飯盛山についてたずねたのだが、地元の人達でなく得るところ無。私は村人の言葉どおり林道終点に上り、そこからは谷沿いを進み、やがて私の好みによる気儘な方向づけで左岸尾根から植林帯を抜け出て灌木帯を詰め、北東に千ケ峰を見通せる稜線峰に立ったのであった。

そこは多田で望見してきた植生であったが、どうも山頂としての風格と品位が感じられなかった。バロメータの指針は８４０m、それに南西に納得できぬ峰があり、△の確認は深雪のため不能など、どこで何が、どう喰いちがったのか、ここは目的地点でないことは確か。けれど健気に登り直したところでこのおびただしい積雪量では△は確認できまい。それでは折角の登頂が明確にならず、私

の気分はすっきりしないにきまっている。もう、こんな飯盛山はあっさりおあづけにしておいて、はやく妙見山に登って気分をさっぱりしようと車に戻った。先ずトラックと出合った時が不安だった。けれど暫らくは上ってこないと聞かされ安心して下る。その途中に雪にうもれた林道があった。往路は全く気付かなかったが、これが村人の云っていた林道かも知れない。

実は、妙見山は予告しなかったが、当初から登るつもりであった。だから飯盛山をおあづけさせたのは妙見山かも知れない。門前の八幡宮の横から林道を北行、あと少しの地点でひどい砂利のため空転、いやらしい路面に閉口、苦闘の末200m余退却して権兵衛池の上手に駐車。

苗木を植えて間もない広くゆるやかな伐採地から破線にのる。権兵衛池への水路をまたぎ、植林でフジガ谷沿いを少しいくと右岸に渡り雑林中によく踏んである曲折の道を、これも少しで右岸に出る。そこが何とか鉱山跡だそうである。道は左から下る細流沿いに続くらしいが、私は直進し岩くずを踏んでいった。その上でも鉱山跡があり、振返ると権兵衛池や駐車してきた車を展望できた。岩くず帯が終るとその上部は、植林と雑木が混じる雪斜面になる。大したことはあるまいとスパッツをつけてこなかった、まづかったかな。

靴が雪をすくわないよう頑張って加美町界の小高い石囲いのある稜線に上った。そこから妙見山（二等△693m）は、すぐそこ。やはり標石は10センチの雪中だった。当然そこに存在する三角点だが、こうして筍のようにほほえむ標石は感動が大きい。太陽のやわらかいぬくもりに包まれ、標石が匂い、雪が匂い、妙見山も匂い、心から私も酔う。篠ケ峰はかすかに見えているけれど、千ケ峰、飯盛山、笠形山等はガスと吹雪で姿がない。吹雪といえばあの千ケ峰で遭遇している。あれは金久さん、西尾さん、宮後君、大槻君たちとだった。当時をおぼろ気にいろいろ思い起しなつかしくなる。帰って千ケ峰を調べると、金久昌業、西尾寿一、宮後正樹、大槻雅弘、守山嘉彦、神谷明、大畠正吾のみなさんで1972年2月13日に登っていた。

この山行はすぐ西尾寿一さんから京交山岳部報第233号へ貴重なご寄稿をいただいている。けれど私はこの紀行文をさぼってしまった。金久昌業さんにおかれては愛情のかぎりをそそがれた千ケ峰の的確な名紀行文を「北山（第174号）」にご発表いただいている。しかし、この千ケ峰の大事な同志、金久昌業さんは1982年2月16日。また、宮後正樹君は、1982年10月3日それぞれ鬼籍に入ってしまわれた。この世は仮寝の宿らしいが、まだ夢のような気がしてならない。千ケ峰とともに心から金久さんと宮後君のご冥福をお祈りする。

3月6日（火）　出発 5:45 一谷川駅 7:34～7:50…P 8:50～9:05…840m峰 10:23～11:00 P 11:35～11:40…権兵衛池上手 P 12:45…好展望の鉱山踏 13:35…妙見山 14:30～15:05 門前 16:25…天引峠 17:40 一帰宅 19:11　　1984.3.15

入院のお見舞御礼

広　瀬　　烈

病気入院中は、山岳部有志の方々よりお見舞をいただき、そのうえ、なぐさめや励ましの言葉を受け、ありがとうございました。肝炎を併発したにもかかわらず4月9日退院し、久しぶりに我が家に戻りました。一日も早く職場に復帰し、又山行出来るように願っております。どうもありがとうございました。

第１４７７回例会

虎　子　山

大　槻　雅　弘

岐阜山岳連盟から発行された「ぎふ百山」の本。この中に掲載された１２０山は私にとっては大変魅力あり、また、登高意欲をそそる山が多くある。出来れば１２０山全てを完登したいと思っているが、現在赤線で消えているのは約３分の１の３９山。年に３山程度の消化ではまだ２０年はかかる。本を見ながら気長くあせらず、楽しみながら息の長い登山計画を立てているので、この本とはまだ当分長い付合いをせねばならないと思っている。

その中でもやはり年令と、スタミナ、登山方法により優先順位が自然とでてくる。当面の課題として、伊吹から綿々と連なる国境稜線を一つ一つ塗りつぶすのが楽しみで、福井県までの間に残った４山の内の一つが今回の虎子山に選んだ理由であった。

例会に組んだ時に、すぐに参加を申し入れてくれた吉田君と、スキー登山にしようと話しがまとまった。当日、まだ夜明け前の東インターを一路東へ。いつも見馴れた伊吹も、今冬の大雪でまだ真白。例年なら、もう関西のスキー場はシーズンオフに入っているのに、京都の花背でもまだ滑れる状態。我々山屋にとっては楽しいシーズンだが、反対にこの大雪で多くの人も泣いている。先日の新聞でもこの雪で全国で８７名の人が亡くなったと報じていた。出発して３時間で目的の国見岳スキー場へ着く。早速登山準備にかかり、スキーのシールを点検、服装を整えゲレンデよりスタートする。このゲレンデは日曜日にもかかわらず穴場なのか、足の便が悪いのか、他のスキー場と較べると大変すいている。

一部の人がリフトに乗ろうというのを、強引に全員最初からスキー登行に決める。高速道路を走っていた時は一時厚い雲もあったが、今は青空が広がり山は我々を招くがごとく、稜線まで真白な肌を見せている。登行ルートを目で追い、頂上へのルートをスキー場の上部より真直に伸びる尾根へと決める。

リフトの横を、一汗かいてゲレンデ上部に出て一息入れる。これより杉の中を二・三回ジグザグして登ると目の前がパット広がる。今日の参加者は２０何年振りという岡田部長、最近これまた20何年振りにスキー復活の古市氏と、常連の三橋氏と吉田君それに私の５名である。部長は今回新調のスキーと金具で「昔とえらい変ったもんや、楽になった」と金具の発達に感心しながらマイペースで御満悦。出発して１時間余り、ちょうど尾根の真中あたりで休憩する。とても見晴しが良い場所で、ゲレンデを真下に見、尾西の部落の向うに昨年６月に登った檜ケ先山が、穂先を真白にして対峙している。南は林道のくい込んだ先に国見峠、それに続く国見岳と１８０°左を見れば１２３４mの貝月山がデンと腰を下している。景色に見とれている内肌寒くなり、雪もチラチラしてきたので出発する。

尾根は部分的にアイスバーンになった所もあり、そこを避けて谷側に少し廻り込んだりしてルートをとる。トップを交替した古市氏は快調に進む。稜線直下の尾根で、三橋氏と私がスキーアイゼンを試してみる。アイゼンは心地よく雪面をシャーシャーという音を立て効果を発揮するが、残念ながら直登では登高支柱を使用するとアイゼンが効かず、支柱を外すと足首が痛くなり予想していたよりはもう一つであった。

ブルースカイの素晴しい天気になり全員が稜線に出たのは出発して2時間余り。広い稜線尾根はゆるやかな起伏を国見峠より北西に伸ばし、それが虎子山へと続いている。伊吹山頂の測候所のアンテナがよくみえる。虎子山の頂上三角点は雪積が多く位置を確認するのは不可能で、ここら当りが頂上だというところで、１０時３７分バンザイ三唱。ゲレンデまでも聞えそうな大きな声で腹の底から大声を出し、スカットした気分になったとたんに腹の虫が鳴る。青空だが風が冷たく風よけを求め木の根の窪みで昼食にする。温いコーヒーやラーメンやスープ、各自適当に腹ごしらえ。1時間程の昼食タイムを摂り頂上を後に待望の滑降に移る。シールを外したスキーは良くすべる。各自２・３回ストップ練習や滑りぐあいを試してイザ、スタート。大斜面、誰もいないこの大自然に各自思い思いのコースをとりシュプールを白い山肌に刻む。

汗をかいた苦しい登りを思うと何んと滑る事が楽なことと早いことか。あっちへ行ったりこっちへ行ったり楽しみながらゲレンデまで３０分で下りる。スキーヤーが我々の下りて来たシュプールを見て「あそこを滑って下りられたんですか」と何人から声を掛けられた。なる程、我々が見ても相当急斜面にシュプールがz型についている。滑っている時はそうも思わなかったが、こうして下部より見るとよく滑ってきたものだと自己満足。

帰洛するには時間も早く皆んなで山屋のスキーデモということで、回数券1枚分をゲレンデにて遊ぶ。心地よい疲れ（本当は膝ガクガク）になってスキー場を後にした。

〔参加者〕　岡田、三橋、吉田、古市、大槻

〔コースタイム〕　名神東インター 5:40 ― 6:40 関ケ原 ― 8:00 スキー場 8:20 … 8:47 ゲレンデ上部… 9:32 尾根中間地点休憩… 10:37 虎子山 11:38 … 12:30 スキー場 15:12 ― 19:30 東インター

第１４７８回例会

清水・南部図葉の山

伊　藤　潤　治

3月１８日２０時前、八条口で土佐から特別参加の山中二男さんを迎え、この山旅は始まる。やさしい月光を浴びていた名神高速道路であったが、山中さんからご子息（２７才）の昨年1月赤石岳でのご遭難についていろいろ痛ましいお話を伺いご冥福を祈りつつ近江・美濃がすぎ、三河も駿河が近づく頃になると、いつしか月影がなくなっていた。天に心あれば、空も曇ろう。

赤石岳を私は昨年１１月２７日白き巨峰として鳥倉山から近々と仰ぎ見てきたが、今にして思えば恐怖をおぼえ非情を感じさせ、吸い込まれたくなる白色である。山中さんは静かに、息子は好きな山に召されていったのだから本望だろう。とおっしゃっている。私には慰める言葉がなかった。東名高速・牧之原ＳＡで仮眠をし、迎えた１９日は雨になっていた。

静岡で東名高速道を下り、安倍川筋をさかのぼって、梅ケ島温泉、梅薫楼につき、朝食をとって昨１８日は、かなりの登山者があったという安倍峠・八紘嶺を目指して雨の中に出た。すぐ雪道になり地元がこんな年は知らないとあきれている積雪を踏んでいく。林道と別れて植林尾根の電光形道をのぼっていると、下山してきた若者２名に会う。若者は昨日ある人が八紘嶺を目指したけれど首までのラッセルに閉口して中退しているから、安倍峠付近の林道まで朝からいってきましたといっていた。これだけのトレースがあるのと、この山地の下十枚山や上十枚山で、この正月に出会った登山群のことを考え合せると、八紘嶺の中退話は信じたくなかった。雨は知らぬ間に雪となって降りついでいた。

若者２名の訪れた林道は１３２０ｍ地点、安倍峠へは林道工事中と断わって迂回が指示してある。迂回路はある地点まで八紘嶺コースをのぼるよう図示してあった。図示域は木立のさまざまな自然林に一変し景観が明るくてたのしい。雪を背負った笹をくぐったり、雪を踏み抜いて思わず悲鳴をあげたりして、安倍峠の岐点についた。だが、安倍峠コースは、美しい無垢の雪面だった。八紘嶺コースのトレースはガスで何も見えぬ富士見台を通り、ぶすぶすもぐる急斜面も健気につづいた。これが突然、約１７４０ｍで消滅したのである。とうとう信じられない事が起きたのであった。確かにトレースを当てにはしてきたけれど、考えれば他人さまの踏跡ばかりで登頂しては虫がよすぎると思えた。だからトレースがなくなったからといってすぐ帰る気にはなれず、果敢に頂上へ向った。けれど１５時になって山頂はなおガスの彼方はるかでバロメーター１８２０ｍ地点であり、やはり力及ばず念願は果たせなかったが、なぜか、爽能をして快く退却したのであった。この登達地点は、「南アルプス（白旗史朗著）」によると、八紘沢ノ頭のようだ。

下山に際して、富士見台辺りまで往路のトレースがほとんど消滅、降雪が意外に多量であるのにしばしば戸惑った。今朝、無雪であった梅薫楼付近でも既に積雪２０センチでなお降雪中、私たちはすっかり悲しくなってしまった。この雪が夜半には雨、それが翌日も降りつづくのであるが、私たちはその夜、明２０日の山伏（△２０１４ｍ）登頂は断念して、真富士山など清水図葉の山に鞍替えすることにした。

３月２０日　また登りにきまっせ、というて梅薫楼をたち、新田に下ってタイヤチェーンを脱しこんな雨天ではお目立ての真富士山であっても果たして登る気になれるかどうか疑問。山登りにきてこんなに気乗りのせぬのは困ったことですね。まあ、平野に着いたらどうなるでしょう、と話をしている間はよかったのだが、こっそりチャーチランプがついていたのである。ひやひやしながら渡（ど）の内藤石油ＫＫまで転がし、彼岸のお中日で休業であるのを特にお願いして点検してもらうと、ファンベルトのプーリ破損、これは取替えないと走行不能の故障である。しかし、おいそれとこんな部品のある筈はなくどうなる事かとどきどきしたが、内藤さんのご親切によって修理を引

受けてくれた三浦モータースは、部品が明日とどけば１５時には取替えられるでしようと、ほっとさしてくれた。また、明朝までの駐車や民宿の所在とその平野まで便乗など等、すっかり内藤さんのお世話になってしまった。

この地の皆さんの彼岸の中日は、ご先祖の供養や墓参のため全休だそうである。私の車は何の報いか、この日に故障したのである。この日は雨天と車の故障のため、林道を歩いただけで山には入らなかった。その林道でふと目にとまった可愛いい葉、これは植物学者の山中さんと一緒なので、イワユキノシタと分った。

「日本植物総覧」には、イワユキノシタ、ヤマユキノシタ。多年草、匍枝ヲ曳ク、葉ハ長柄、革質、卵状披針形、鋭頭、稍心脚、不斉粗鋸歯縁。柄上髪毛アリ、花茎ハ高５・６寸尖塔形ニ分枝、複総状花序ハ枝端ニ頂生、雌雄二家、花ハ細小、緑白色、無弁、ガク片五、長楕円状披斜形、雄蕊十、五長、五短、挺出、子房ハ二室　花柱二一　山地岩石上　花候春。このような説明がしてある。

そのご山中さんから、イワユキノシタは箱根、富士周辺に点々とあるようで、今までに金時山、天城山、愛鷹山、安倍部玉川、山梨県早川村にみつかっているようです。しかしこの範囲と四国東部以外にはないので、やはり奇品でしよう。との便りがあった。

３月２１日　天気が回復し今日はようやく一山かせげると思うとうれしくて心がうきうきとしていた。宿の犬が今日もついてきている。登山口へは昨日より６分早着してコースに入る。暫らくで石を組みよく踏みならした歴史の匂う道になり、いい気分だった。その上部は右が開けて明るく休憩を強いる形の岩がならび、左に「第十一番を刻んだ観音さまらしい石仏像」の安置があった。

植林斜面をトラバースして林道をまたぎ、千丈、下山コース標で右折、涸谷（上流には水音あり）を渡って第十五番、石仏像。小谷の窪を越え第十六番、第十七番の石仏像前をたどり、第十八番を見ると林道。これも横切ってまた林道に出た。そこには「大河内中学の第一真富士山コースＡ地点」標やトーテンポール風の登山口表示物があった。それからも植林内のコースだったが積雪量が追々に増しトレースは凍結していた。「大河内中学の第一真富士山コースＢ地点」を登ると、左岸上に出てトラバースすれば、第二十三番の石仏像の立つ岸辺についた。ここでトレースは左右に岐れていた。左をとり谷をトラバースして右岸に上ると、前記の右トレースと合う。そこから雪に半分埋まって立つ若い植樹帯になり、間もなく「第二真富士、第一真富士山」コースの分岐標識につく。ところがトレースは意外にもここで終っていた。せっかくここまでラッセルをしながらどうして一人も登頂を果たしていないのだろう。ときに１１時１２分。バロメーターは１，１３０ｍだった。

その時私は、不覚にも車が１５時には直るものと思い込んでいたから、そこで悠々と残念宴をやって下山。わくわくしながら三浦モータースにいくとまさかと思ったが、部品がくるのが明日になったという。がっくりしたが、どうも仕様がないので天気がよければ明日は見月山に登る事にして宿に帰った。今朝の出発は遅れたが、私の山のぼりには杖やルックザック同様、車も欠かせない登山装備であると、つくづく今日は思った。

３月２２日　目覚めると昨夜の指針２２０ｍであったバロメーターは１６０ｍ。天気は大変よさそうである。こうなってくれるだろうと昨夜の内に宿の精算をすまし、準備もしておいたので寝静まっ

ている宿を勝手に開けて出た。宿の犬はこの日もついてきたが、山の朝のごあいさつが忙がしく、つい声が掛けられなかったからか、見月茶屋のある宮田（みやてん）橋では姿がなかった。見月山へは宮田橋で鉈熊沢を渡り、フェンスをまとった細道に取付き、小さい茶畑の縁をめぐって、次の茶畑に移りその茶畑から植林斜面に入った。この茶畑でウグイスを聴き、真富士山を朝日が光背のようにまぶしく輝やかすのを見た。

宿では見月山にはかって雨量計があって点検のため登る人がいたが、私は登ったことが無く、その道は知らない、といっていた。古老からは、谷筋から頂上への道がある、ときかされている。登るほど道は右寄りになり、鉈熊沢を離れこの道は古老から聞いたコースには、乗らない。しかし私はこの道に満足して登りつづけ、神が道に備えて下さったに違いない座り心地満点の露岩では、天恵の憩場だといって休み、炭焼竈跡らしきものをのぞき見、約650m辺りから雪を踏み、ほぼ700m地点に上ると作業小屋があった。この小屋は朝食を暖かく楽しくさせてくれてよかった。

やがて金網張りの椎茸場に入り、広さに紛ぎれて道を見失う。一時は戸惑ったが、間もなく左端で道をつかまえ、ようやく尾根に掛るが、南面をまいて約950mに上ると、安倍川を足下にした展望があって、北側は自然林で笹が立ちだし、雪も俄かに深くなり、登りも快晴の太陽をうけ、段々はかどらなくなり、せいぜい日陰の雪を踏みながら頂稜に登達し、なだらかな稜線を南にいく。

この西側も、北側につづいて快い自然林だが展望をさまたげているのが惜しい。その代り、東側は植樹がまだ低木だから北は十枚山、南は竜爪山までの大観ができる。ふっくらと積雪30～100センチの平頂であったから、この三角点探しは大変だが、持時間全部を賭けて勝負の覚悟で物色を始めると、朽木の梢に「静大WV、見月山」の打標が目につき、10分許りでめでたく見月山（△1046.9m）三等三角点を確認できたのは、大きな幸せであった。（南端の成長林内に、黒塗、施錠の建物があった。）

鉈熊沢 6:38…作業小屋 8:00～8:40…見月山 10:15～11:15…鉈熊沢 13:39

車で帰路についたのは16時前で、東名高速、静岡IC入線時に、富士山のウインクに見送られて気をよくし、あと牧出原、浜名湖、上郷、羽島、多賀等で土産を買ったり、のぞいたり、憩うたり、帰宅したのは22時前だった。

以上、報告は書いたが第1478回例会、清水・南部図葉の山々は、そっくりそのまま残っている。これを私はどうすればよいのだろう。 山中さんは、ゴヨウツツジやヤシオツツジの花季がよい、といっている。花は夢にも咲きだした。秘かに、ほくそ笑んでいるのである。

1984年4月2日

第1479回例会

石仏峠

大木秀実

「北山の残雪を歩いてみませんか」と書いた案内を津田さんからいただき、2月に豪雪のため中

止になった、石仏峠に3月２０日、春分の日に行って来ました。

四条大宮6時５５分発周山行きの国鉄バスに乗るため6時４０分頃にバス停に着いたが、まだ誰れもこられてなかったので、釣りに行かれる人がおられたので話していると、美山川までアマゴ釣りに行かれるそうで今年は雪が多くて、うっかり歩いていると腰まで雪にうもれて大変動きにくくまた水温も大変低く釣りにくい様で、毎年解禁日には５０匹以上は釣れるのだが、２０匹がやっとで、それでも多い方だそうである。この分だと石仏峠も残雪が十分にあり楽しめそうだと思いながらバスに乗る。

周山でバスを乗り換え井戸で下車、まわりはとても3月下旬とは思えない雪一色で今日は残雪というより、新雪となりそうである。身じたくを整え8時４５分出発。橋を渡り井戸祖父谷の車道を行く。祖父谷方面との岐れで、今日のリーダーの津田氏の指示によりアイゼンを付け、イモジ谷に入って行く。ここから先は全く除雪されていない様である。車道が終り山道となるが川ぞいに軽快に登って行くと、踏あともなくなり、雪も深くなってきたのでワカンをつける。（アイゼンの上からワカンをつけたので、少々重く歩きにくい。）

今日は曇っていて少し寒いがなんとか一日持ちそうであるのはいいが、今日のメンバーは健脚ぞろいで若手（？）の私もついていくのがやっとである。石仏峠下の小屋は半分雪に埋まっていて、そこからはしばらく急登、なれないワカンはどうも扱いにくいが、注意して急斜面を登っていく。「石仏は大きな杉の木の下にある」と津田さんが言われたので、さがしながら登って行く。石仏の案内板が見つかり、この雪の下に２体の石仏があるとの事。送電線が上空を横切り「ブーン」という音がイヤに気になる所である。

ここで昼食にするとリーダーからの指示があり、いつものモチ入りラーメンを作る。昼食後石仏峠まで行き、協議の結果予定を変更して祖父谷峠に向う。踏あとが全くなく、赤のテープをたよりに進む。少し行くと展望のいい尾根に出た。私の持っているガイドブックによると「このあたり、ゆるやかな上り下りの中に遠く丹波高原の山々の稜線が広がり、西に天童山を望みパノラマのような展望である。北山を代表する風景とはここのこと、ここを歩かずして北山を語るなかれ」とあります。事実すばらしい展望で一同しばらく立ちどまり展望を楽しむ。「新緑の頃にも一度ここに来たいナー」「山に来んやつは、アホヤー」が、この展望を前にしての主な感想であった。部長に送電線の話を聞きながら祖父谷峠へといそぐ。峠からは踏あともあり快適に進んで行き、桟敷岳への岐れからは山元さんをトップに、4時４０分のバスに間にあう様とばしたが、途中断念6時のバスで帰ることにし、水場で休けい、各人おみやげの水を水筒に一杯つめこみ、岩屋橋に5時に到着。バス発車まで1時間、今日の山行の事などを話しながら待ち、ガラガラのバスで帰った。（4時40分のバスは桟敷岳に登られた人が多かったのか、超満員だったそうです。）

〔参加者〕　津田　実（リーダー）、　岡田茂久、三橋　勉、原田加津子、荒田又之助、松井邦雄、宮川　勇、山元誠一、大木秀実　（９名）

〔コースタイム〕　井戸 8:45…岐レ 9:15～9:30（アイゼン）…水場 9:45～9:50…橋 10:07～10:30（ワカン）…小屋 11:05～11:15…石仏 12:00～13:00（昼食）…祖父谷峠 15:00…岩屋橋 17:00…バス（18:00）

第１４８０回例会

大日ヶ岳ツアー

大　槻　貞　従

３月２４日（土）～２５日（日）　１泊２日

岐阜羽島インターで高速を降り、長良川右岸沿いの県道を渋滞も信号もなく、スイスイと郡上八幡の国道１５６号まで来た。この道は、三橋氏が大垣の藤井さんから教えてもらった県道で、１時間半～２時間は近道である。今後この方面へ車で来られる人は、この道を試されて見てはどうですか。午后６時、明るい内に大日荘へ到着。

２５日（日）　快晴

７時半宿出発、リフト終点の１４００m地点着。９時３５分、シールをつけて登山開始。登りは平均斜度２０度ぐらいのゆるやかで広い道を、散歩気分で高度を上げていく。幸い気温が低いので雪質も良い。地元岐阜労山メンバーと同道して、コースを教えてもらえたので迷うこともなかった。白山系まで来ると、積雪量も多く、ブッシュもない白い斜面を何の障害もなく進んだ。昨年５月に来た山容のおもかげを思い出しながら登っていった。

大日ヶ岳頂上に立つと７０柱がわずか頭を出しているのみで、広い丸こい山頂だった。左から、野伏ヶ岳１６７４m、薙ア山１６４７m、よも太郎山１５８１m、願教寺山１６９０m、そこから右へ白山銚子ヶ峰１８１０m、丸山１７８６m、芦倉山１７１６m、天狗山１６５８mと白い峰々が連っている。

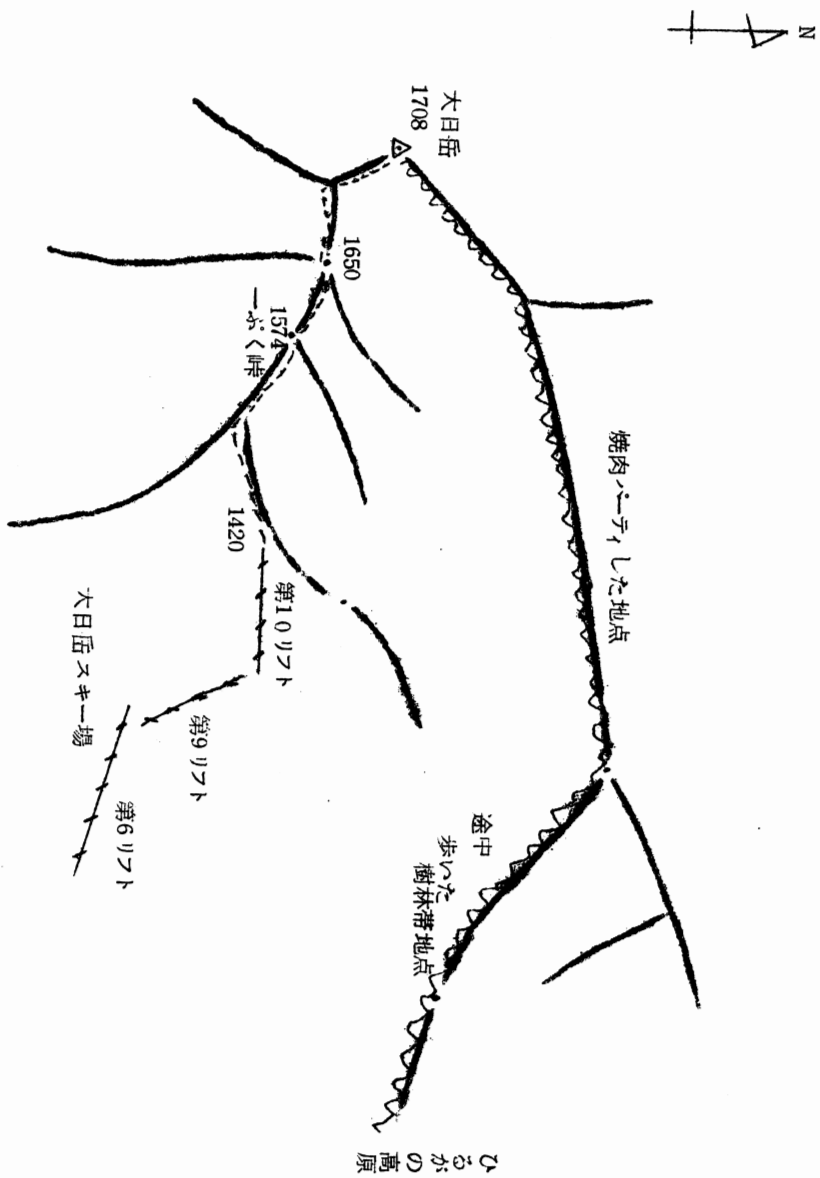
大日ヶ岳から一番近い天狗山へは１．５Kmしかなく、なだらかな起伏が続いている。思わずそこまで足を伸ばしたい衝動にかられたが時間がなく中止したが、次回は是非銚子ヶ峰避難小屋泊りで、石徹白方面へ降りて見たい。頂上直下に風をさけて軽い昼食をすませて、蛭ヶ野方面へ７Kmを滑る時がきた。青くすき透った空から春の日ざしが白い雪原にふりそゝぐ。もう春スキー真さかり。樹一本ない広い空間を好きな方向へ長い斜滑降のシュプールをつける。まったく広いゆるやかな斜面を思う存分飛ばしていく。雪もしまり、爽快無比とはこのことだろう。下山距離の中間地点に来たところで、焼肉パーティをはじめた。あとからすべって来た岐阜労山メンバー２人にも食べてもらったり、自家製だというぶどう酒をふるまっていただいたりして歓談の後、時間を心配しながら下山を開始した。途中、クレバスが口を開けており、落っこちれば上れない箇所が数ヶ所あり、ゆだんは出来ない。やはり小さいロープは持って来るべきだろう。蛭ヶ野スキー場方面へ分岐点を見すごさず、右へ右へとコースを取っていく。ここからは樹林帯に入り、樹にぶつからないよう緊張の連続だ。途中急傾斜になってきたので板をぬぎ、約３０分ほど歩いて、又板をつける。樹林帯を抜け、伐り開かれた所から右下に林道が見えたので、そこえ下ったらちょうどよい林道で、牧場の広い草原を国道までルンルン気分で滑ることが出来た。国道へ出た所がちょうどバス停だったのには幸運だった。やがてバスに２０分ほど乗り、宿へ荷物を取りに戻り服を着換えて帰路に着いた。

実に楽しいツアーだった。是非又来たいコースだ。

岐阜県郡上郡高鷲村西洞　大日ケ岳スキー場〜蛭ケ野高原口　大日荘（民宿）泊　　マイカー

〔参加者〕　広瀬光太郎、大槻貞従、三橋　勉、功チャン

〔コースタイム〕　リフト終点 9:00 〜 9:15…頂上大日岳 11:15 〜 12:10（昼食）…蛭ケ野高原口バス停 16:15…国鉄バス乗車 16:35 ー大日スキー場口 17:00 〜 17:30 ー苅安（夕食）19:30 ー京都 22:10



名張　奥香落（おくかおち）の小太郎岩

萌　椰　子

昭和５９年３月２２日～２３日

今年の記録破りの長い雪の季節も終りに近ずきました今日此頃ですが、この山行きは急に思いついたのではなく、広沢さんと私の休暇の合う都合で、アチラへ行こかコチラへ行こうかと予定の変更をしているうちに待望の小太郎岩へのチャンスがまわってきたのです。

皆様もよく御存知と思いますが、念の為に少し説明を書かさせて頂きますと、まず、国土地理院の５万図名張を拡げて見ます。初めに有名な倶留尊山が目に入り、その横に鬼岳と兜岳、青蓮寺川の側に小さな字で小太郎岩と書かれてますが、此の図では壁の様子は分りませんのでＨ社出版の登山大系での説明を一部引用しますと「小太郎岩は青蓮寺川上流の曽爾（そに）川の東岸の幅６００m、高さ200mの垂直に近い岩壁で、火山岩特有の柱状節理が発達しており西面に人気あり…」と書かれてますが道路（県道４８号）からでもハッキリと分るライオンの顔ルートが人気の中心となっている壁です。広沢さんより今回の主目的はこの人気ルートの北に位置するソロバンルンゼと呼ばれる滝サイドの壁で高度差３５０mで４段の奥壁と下部大滝により成っているところをアタックしたいと聞きました。（下部大滝は側壁がドーム型になって異様なムードをかもし出してますが、以前に岳人クラブの仲間とコース確認の上登攀済みだそうです。）それで今回は二番目の滝サイドの壁より頂点までぬけられれば…とのことで出発しました。

２２日の勤務終了後の出発で、現地１８時３０分着、バス停前の西岸にある小太郎ヒュッテの御主人を訪ねる。（若い御主人は素晴しいクライマーだそうで、四季を通じて近辺のいろいろな壁のルートに詳しいそうです。）　広沢さんが早速ですがとソロバンルンゼの事を尋ねますと、私も二度しか登ってないし、ハッキリと全コースを記憶してませんが、と前置の上で、このコースへ入るパーティは年に一度あるなしで、ピンやボルトも古く又浮石も多いので充分に注意して下さい。ルートは左岸壁にありますし頂上までぬけられると山道があり、裏手の村へ下山できますとか、西面ルートからの続きで行くと全部で１１ピッチにもなり、時間的に難かしい…のでランプも持参して下さいと親切なアドバイスを受けて辞する。東岸の駐車場にあるヒュッテの専用地に車をとめて後急いでテントを張ると寒さと共に夜の帳がおりました。

２３日朝5時起床ですが、冷え込みは相当なもので、前日に降った雪も道端に少し残っており、テントの中のポリタンクの水も薄氷が張りました。（後でヒュッテの方に聞くと、今朝は－６度だったそうです。）それで早く出発しようとの予定が指の痺れで仕度も遅れがちで出掛けたのが、６時５０分になってしまう。

東岸駐車場の喫茶店の横を通り抜けて植林の中を少し登り、７時に下部壁に着く。ここは３級ル

トA1 30mですが人工にフリーが適度にミックスされており、アブミの架け替えに最上段に乗らねば上のボルトに届かないし、朝一番の取付きは体が固く動きも悪く必要以上の時間を費して彼の足を引っぱってしまった。

下部壁終了点よりはコンテでバンドの上を右進してライオンの鼻ルートへ、ここは4級・A2、70mのコースで2ピッチでも行けますが、ザイルの伸びが悪くなるので3ピッチに切ります。ハイどうぞと言われて最初の10m程を私がトップ。ちょつと見ただけでも多くのルートがありアドバイスを受けながら進まないとコースからハズレます。その先のA2にグレードアップする所は広沢さんにリードをお願いして彼の姿がハングの上部に見えなくなってから声ぞけが、ハイどうぞ!! ではお願いしますとアブミに体を乗せて、ライオンの鼻下の宙吊りのボルト掛替えを2本進んでから鼻先の上に打たれたボルトへカラビナを掛けてホッと一息、さて下界はと眺めれば、オー!! これはまさしく百尺竿頭如何進歩。

鼻筋の中程の宙吊り確保点からもトップをどうぞと勧められて怖さと嬉しさの気持が渦を巻く。ガンバッテ下さいと送られてライオンの額の小ハングを左へトラバース、そこのピンが一本は折れ残り、一本も錆がきつくてコワイナ…、折れないで下さいよと念じつつ、次のボルトへ。それより上部もボルト間隔が遠く打ち込みの浅いのもあり、不安な気持の登攀を強いられましたが、なんとか上段バンドへ、灌木2本を使って確保を取り解除の声の大きさにザイルを手繰りつつ一人苦笑す。タイムロスが多くこの場所での終了タイムが11時35分と遅くなるが、彼は行けるところまで行こうと上段バンドを左方へコンテで進み、F2の滝の下まで行って11時55分。立ったままで昼の軽食を摂りつつ滝を眺む。今朝の冷え込みの為か、滝の面には素晴しい氷塊と氷柱が一面に羅列（滝の高さ35m、巾10m程です。）なんと見事なものですと眺めてる間にも日当りの遅いこの壁に春の陽光が熱を与えて気温が急上昇、4段の滝の最上部の滝よりと思われる氷の落下が始まり途中の岩棚に当って砕け飛び散る様は見応えがありましたが、結構大きな塊も落ちてきてドスンドスンと音をたてて少し危険なので避難しました。滝の横5m程に一本のルートがあり、ピンやボルトを目で追うと上の棚まで続いてますが落氷がとどいてますので20m程離れたルートを広沢さんが探し出しまして、そのルートに13時に取付きました。

上手にリスを探して打たれてるピンは相当に錆びてましたが、全体にハーケンの使用が多かったようですし、広沢さんもボルトは打ちたくないと折れたり抜けたりの個所では、ハーケンを使ってられました。この壁はセカンドで登っても難かしく私の技術ではインチキなわざを使いたい所もありましたが、大声で気合いを入れて無事通過。又岩肌一面に乾燥した苔が薄く付いており、体の一部が擦れ合う度に埃が舞い上って顔から首筋に入り込んで気持の悪い登攀となりました。45mザイル一パイに張った所に小さなバンドがあり、灌木の根本で確保点となってましたが、私が到着してボデー確保が終って時間を見ると15時15分、もうこの先への登攀は時間的に無理ですから今日はここまでで終りますと言いつつ、彼はザイルを解いて少し上部の偵察をしますからと急斜面のブッシュ帯を登って行きました。私にはとてもザイル無しでは登れませんので腰をおろして景色を眺めて彼の戻りを待ちました。このビレー点より下部5m程はブッシュがあり、その先に腕ぐらい

の太さの灌木が三本岩の間に根を張ってますが、触わるとグラッと揺れるのもあります。その下からはブッシュも無くてザイル回収時に引っ掛からないだろうと、その灌木から懸垂下降をするのですが、少しビビリ気味の私は支点をダブルの木でとって下さいと頼み、彼はこんな太い灌木なのにと笑いつつ、それではと赤のテープを使い二点確保の支点を作ってもらい、やっと降下できました。（次回よりこのテープがコースの目印になります。）

次は上段バンドを戻ってライオンの顔の横を細い雑木で支点をとって３回の懸垂をやるのですがここでも一本では心細いので二本の雑木を使ってなんとか降下する。（多くの人が入るゲレンデでは完全に打ち込んだボルト３本以上にテープの束を使いますので懸垂もそう怖くはないのです。）

１７時１５分に駐車場に無事戻り、ヒュッテの御主人に報告に立ち寄ってお礼を言い、又来て下さいの声に送られて一路京都へ２０時３０分に広沢宅へ着きました。主目的のソロバンルンゼを抜けなかったのは私の責任ですが…技術的にも体力的にも少し荷が重かったようで止むを得ずでした。

しかし次回は暖くなって昼の長い時期に入って再度アタックしましようとの事で、同行できればソロバンルンゼの頂点まで抜きたいなあと思ってますが…？　過去、現在、未来とお荷物になった報告ばかりになりますが、私個人の力ではどうにもならない山行を報告してますので御了承下さい。以上です。

〔追記〕

先日同じ職場の山岳部大倉リーダーより国地院の５万図２枚を頂載致しました。これは部報への投稿回数が入賞した為だそうで、少し恥しい気持ですが有難く受取りました。今後もガンバリたいと思ってますので、皆さんよろしくお願いいたします。有難うございました。

夜　泣　峠

畑　　照　人

３月２６日（晴）

十二支会参加の岳友から北山のクリンソウの話が出たので、私のお花畑への案内を思いつき、夜泣峠へ入る。谷間にはまだ残雪がある。昨年の台風１０号で土石流のため、ひどく痛めつけられていた。（当時現場確認した。）この谷も残雪多く、状況が全く判らない。雪が消えてからもう一度入ろうと思う。貴船山へと向うがだんだん雪深くなり、輪カンが必要？　樋水峠で昼食中の高校生グループにあう。直谷へ下るらしいが、この雪では中々歩きにくく難儀している様子だ。△点へはとても無理だ。二ノ瀬ユリ道を通り、二ノ瀬駅から帰宅した。西陣山の会が小学生３０名小屋で一泊の予定で、貴船口電停からの直登コースを息を切らしながら上って来た。外人さんのカップルにも出会い、「コンニチワ」　夜泣峠では神戸から来た社会人一年生に出会った。山にもいよいよ春来たる…。といった感じであった。

愛　宕　山

畑　　照　人

3月31日（晴）

清滝本道からのコースとる。五合目小屋で休んでいると、後から上って来た人「私は80才近い年令ですが、山歩きのお蔭でこうして達者ですのや。歩くという事は健康によろしいね。あんたも中々調子良く歩いたはるが、大分ベテランらしいですな、大峰山へもお参りですか…。私も4年前に奥駈けへ行きましたが、なかなかよい所ですぜ。一度行って見なはれ。」と云われて、この人も相当なもんやと思った。まだまだ私もこれからや…。神社着、丁度2時間である。気温5°

今日は三角点で乾杯の予定を実行する。ガスが流れて空気が冷たい。到着してビックリ。山頂附近の山が半分程削られて三角点石も風前の灯といった感じ。北側と東側が断崖絶壁状になっているのだ。もう少し、（約50cm）削られたら三角点も崩れ落ちること必至である。現場写真は後日公開する予定。帰りは水尾コースで保津峡駅から国鉄で帰宅した。

例会報告

例会No.	目的地	月日	天候	担当者	参加者	備考
1477	スキー登山 虎子山	3月18日	晴	大槻　雅弘	岡田　茂久 古市　昌造 吉田　武 三橋　勉	広々とした何のブッシュもない白一色の山頂から思い思いのシュプールを描く気分は最高であった。　別稿報告
1478	清水・南部 図葉の山	3月19日 ～21日	雨後晴	伊藤　潤治	高知大学 山中二男氏	別稿報告
1479	ファミリーハイク 石仏峠	3月20日	曇後晴	津田　実	岡田、荒田 松井、宮川 山元、大木 原田、三橋	積雪の多い北山であったが、一昨年の時より寒くなく、快適な雪山ハイクを楽しんできた。 別稿報告
1480	(変更) 大日岳 スキーツアー	3月24日 ～25日	雨後晴	広瀬光太郎	大槻　貞従 三橋　勉 〃　功	今年は雪が多くてスキー族にとって嬉しい年であり、忙しい仕事の合間をぬってよく出掛けるが、だんだんよいコースが待っているような気がする。別稿報告

帆布・濾布
テント・シート
雨合羽

木村工業有限会社

京都市中京区ミブ車庫前
TEL801−5331(代)
西大路営業所
下京区西大路七条下ル
TEL 321−0251

愛されるスポーツ店

京菱運動具店

本店　下京区大宮通松原上ル
TEL(801)1331
十条店　南区竹田街道十条上ル東側
TEL(691)8041
伏見店　伏見区伯耆町西友ストアー4F
TEL(623)0824
山科店　山科区音羽野田町0番
西友ストアー山科店
TEL(592)9770内線228

一年中、山用品だけの
プロショップ

おかげさまで創業5周年を迎え、
店も大きく、商品も充実させて
頂きました。もちろん開店以来の
全品徹底バーゲン価格も続行中！

LOG CABIN

ログ ケビン

京都市中京区寺幸町通錦東入南入
☎(075)221−7569　〒604
(寺町の一つ西の通りの錦上ル東側
四条河原町(阪急)より徒歩3分)

真の専門店として
好日山荘は前進しております
山とスキー用具の
ことなら御まかせ下さい
確信ある用具を
確信ある価格で・・・・

KOJITSU

好日山荘

河原町六角下ル東入
TEL 241−1731

山の本

山岳書 電話ノ本にて
無料配送

ゆかり書房

075(801)8333

昭和59年 5月1日

京都市中京区壬生坊城町48

京都市交通局内
京交山岳部

お知らせ
今度、当チロル店舗は近代ビル改築計画に伴い、一時立退きと相成りました。
改築期間中（約1年間）は、本店2階にチロルコーナーとして継続営業いたします。

チロル

移転先　本店2階
京都市中京区西ノ京円町24
ダイヤ運動用品株式会社

HORIUKE KYOTO
まかせて下さい…ネ
山と乃井一
のことなら…

☆在庫豊富にとり揃えています
☆山の道具は ぜと 御相談下さい
山とスキー専門店
ビッグ ホリイケ
河原町店　上・河原町通丸太町東入
TEL 222－0363

御婚礼
御引越
ぎおん菊水 専門
ぎおん菊水運送株式会社
山科配車センター
京都市山科区西野山階町12－12
TEL (075)581－3101
本　社
東山区大和大路通四条下ル　541－2345
爽川営業所
中京区室町二条上ル　256－3059

結婚引出物・内祝・開店記念品・粗品
仏事用お返し品・お中元・お歳暮用品
贈答品総合センター
厚生会指定
サンコー クラフト
西島輝雄
左．川端通丸太町下る下堤町88
TEL (075)771－3442

山とスキーの店
京都 あるむ
京都市中京区新町三条上ル
075－255－0288

HIKE & CAMP
この用具の事ならコニシが一番です！
御来店ありがとうございます
山とスキー レジャー スポーツ ショップ
そして
海の コニシ
中・二条通河原町西　TEL 231－1202